

考察項目	細別	a	b	c	d	e
1 施工体制	I 施工体制一般	適切である	ほぼ適切である	他の事項に該当しない	やや不適切である	不適切である
	[対象]	☐ 施工過程において、施工体制一般に関する改善の通知が無い。(原則、全ての工事を対象) ☐ 施工計画書を、工事着手前に提出している。(原則、全ての工事を対象) ☐ 作業分担の範囲を、※施工体制台帳及び施工体系図に明確に記載している。(原則、全ての工事を対象) ☐ 品質証明員が関係書類、出来形、品質等の確認を工事全般にわたって実施して、品質証明に係る体制が有効に機能している。 ☐ 元請が下請の作業成果を検査している。 ☐ 施工計画書の内容と現場施工方法が一致している。(原則、全ての工事を対象) ☐ 緊急指示、災害、事故等が発生した場合の対応が速やかである。 ☐ 現場に対する本店や支店による支援体制を整えている。(原則、全ての工事を対象) ☐ 工場製作期間における技術者を適切に配置している。 ☐ 機械設備、電気設備等について、製作工場における社内検査体制(規格値の設定や確認方法等)を整えている。 ☐ その他 (理由:)			☐ 施工体制一般に関して、監督員が文書による改善の指示を行った。	☐ 施工体制一般に関して、監督員からの文書による改善の指示に従わなかった。
●判断基準 評価値が 90%以上……………a 評価値が 80%以上90%未満………b 評価値が 80%未満……………c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除(チェックをつけない)する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = (評価数／対象評価項目数) × 100 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 項 評価＝ ※平成27年3月31日以前に契約した工事は、「施工体制台帳及び施工体系図」を「施工体制台帳、施工体系図又は下請負業者編成表」と読み替える						

考察項目	細別	a	b	c	d	e
1 施工体制	II 配置技術者(現場代理人等)	適切である	ほぼ適切である	他の事項に該当しない	やや不適切である	不適切である
	[対象]	[評価項目] [全体を評価する項目] ☐ ☐ 施工過程において、配置技術者に関する改善の通知が無い。(原則、全ての工事を対象) ☐ ☐ 作業に必要な作業主任者及び専門技術者を選任及び配置している。				

[現場代理人を評価する項目]

☐

☐

☐

☐

☐

☐

[監理(主任)技術者を評価する項目]

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐

●判断基準

評価値が 90%以上.....a

評価値が 80%以上90%未満.....b

評価値が 80%未満.....c

① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除(チェックをつけない)する。

② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。

③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100

④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

考察項目	細別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	I. 施工管理	適切である	ほぼ適切である	他の事項に該当しない	やや不適切である	不適切である
	[対象]	【評価項目】 ☐ 施工過程において、施工管理に関する改善の通知が無い。(原則、全ての工事を対象) ☐ 施工計画書が、設計図書及び現場条件を反映したものとなっている。(原則、全ての工事を対象) ☐ 現場条件の変化に対して、適切に対応している。 ☐ 工事材料の品質に影響が無いよう保管している。 ☐ 日常の出来形管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。 ☐ 日常の品質管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。 ☐ 現場内の整理整頓を日常的に行っている。(原則、全ての工事を対象) ☐ 指定材料の品質証明書及び写真等を整理している。 ☐ 工事打合せ簿を、不足無く整理している。(原則、全ての工事を対象) ☐ 建設副産物の再利用等への取り組みを適切に行っている。 ☐ 工事全般において、低騒音型、低振動型、排出ガス対策型の建設機械及び車両を使用している。 ☐ その他（理由：				

☐

施工管理に関して、監督員が文書による改善の指示を行った。

☐

施工管理に関して、監督員からの文書による改善の指示に従わなかった。

考察項目	細別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	II. 工程管理	適切である	ほぼ適切である	他の事項に該当しない	やや不適切である	不適切である
	[対象]	【評価項目】 ☐ ☐ 施工過程において、工程管理に関する改善の通知が無い。(原則、全ての工事を対象) ☐ ☐ 工程に与える要因を的確に把握し、それらを反映した工程表を作成している。(原則、全ての工事を対象) ☐ ☐ 実施工程表の作成及びフォローアップを行っており、適切に工程を管理している。(原則、全ての工事を対象)				

☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐

☐ 工程管理に関して、監督員が文書による改善の指示を行った。

☐ 工程管理に関して、監督員からの文書による改善の指示に従わなかった。

●判断基準

評価値が 90%以上.....a

評価値が 80%以上90%未満.....b

評価値が 80%未満.....c

① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除 (チェックをつけない) する。

② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。

③ 評価値 (%) = (評価数／対象評価項目数) ×100

④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

項

評価＝

考察項目	細別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	III. 安全対策	適切である	ほぼ適切である	他の事項に該当しない	やや不適切である	不適切である
	[対象]	【評価項目】 ☐ ① 施工過程において、安全対策に関する改善の通知が無い。(原則、全ての工事を対象) ☐ ② 災害防止協議会等を1回／月以上行っている。 ☐ ③ 安全教育及び安全訓練等を半日／月以上実施している。(原則、全ての工事を対象) ☐ ④ 新規入場者教育の内容に、当該工事の現場特性を反映している。(原則、全ての工事を対象) ☐ ⑤ 工事期間を通じて、労働災害及び公衆災害が発生しなかった。(原則、全ての工事を対象) ☐ ⑥ 過積載防止に取り組んでいる。 ☐ ⑦ 仮設工の点検及び管理を、チェックリスト等を用いて実施している。 ☐ ⑧ 保安施設の設置及び管理を、各種基準及び関係者間の協議に基づき実施している。(原則、全ての工事を対象) ☐ ⑨ 地下埋設物及び架空線等に関する事故防止対策に取り組んでいる。 ☐ ⑩ その他 (理由:)			☐ 安全対策に関して、監督員が文書による改善の指示を行った。	☐ 安全対策に関して、監督員からの文書による改善の指示に従わなかった。
●判断基準 評価値が 90%以上……………a 評価値が 80%以上90%未満………b 評価値が 80%未満……………c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除(チェックをつけない)する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%) = (評価数／対象評価項目数) × 100 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。						
		項			評価＝	

考察項目	細別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	IV. 対外関係	適切である	ほぼ適切である	他の事項に該当しない	やや不適切である	不適切である
	[対象]	[評価項目] ☐ ☐ 施工過程において、対外関係に関する改善の通知が無い。(原則、全ての工事を対象) ☐ ☐ 関係官公庁などと調整を行い、トラブルの発生が無い。 ☐ ☐ 地元との調整を行い、トラブルの発生が無い。 ☐ ☐ 第三者からの苦情が無い。もしくは、苦情に対して適切な対応を行っている。 ☐ ☐ 関連工事との調整を行い、円滑な進捗に取り組んでいる。 ☐ ☐ 工事の目的及び内容を、工事看板などにより地域住民や通行者等に分かりやすく周知している。(原則、全ての工事を対象) ☐ ☐ その他 (理由:)			☐ 対外関係に関して、監督員が文書による改善の指示を行った。	☐ 対外関係に関して、監督員からの文書による改善の指示に従わなかった。
	●判断基準 評価値が 90%以上……………a 評価値が 80%以上90%未満………b 評価値が 80%未満……………c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除(チェックをつけない)する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 項 評価＝					

考察項目	細別	a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ I. 出来形	土木工事	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内である。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内である。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a、bに該当しない。	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で改善の指示を行った。	☐ 契約書第17条に基づき、監督員が改造請求を行った。
		※ばらつきの判断は別紙－4参照。 ① 出来形の評価は、工事全般を通じて評価するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系であるが、当該管理基準によりがたい場合等については、監督員と協議の上で出来形管理を行うものである。 ④ 出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。 評価＝				

考察項目	細別	a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ 品質	土木工事	☐ 品質の測定が、必要な試験項目について所定の試験基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、その ばらつき が規格値の概ね 50%以内 である。	☐ 品質の測定が、必要な試験項目について所定の試験基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、その ばらつき が規格値の概ね 80%以内 である。	☐ 品質の測定が、必要な試験項目について所定の試験基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、 a、bに該当しない 。	☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で改善の指示を行った。	☐ 契約書第17条に基づき、監督員が改造請求を行った。
		※ばらつきの判断は別紙－4参照。 ① 品質の評定は、工事全般を通じて評定するものとする。 ② 品質とは、設計図書に示された工事目的物の規格である。 ③ 品質管理とは、「土木工事施工管理基準」の試験項目、試験基準及び規格値に基づく全ての段階における品質確保のための管理体系である。なお、当該管理基準によりがたい場合等については、監督員と協議の上で品質管理を行うものである。 ④ 品質管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。 評価＝				

考察項目	細別	工 夫 事 項	
5. 創意工夫	I. 創意工夫	【施工】 ☐ 施工に伴う器具、工具、装置等に関する工夫又は設備据付後の試運転調整に関する工夫。 ☐ コンクリート二次製品などの代替材の利用に関する工夫。 ☐ 土工、地盤改良、橋梁架設、舗装、コンクリート打設等の施工に関する工夫。 ☐ 部材並びに機材等の運搬及び吊り方式などの施工方法に関する工夫。 ☐ 機械設備工事における加工や組立等又は電気設備工事における配線や配管等に関する工夫。 ☐ 給排水工事や衛生設備工事等における配管又はポンプ類の凍結防止、配管のつなぎ等に関する工夫。 ☐ 照明などの視界の確保に関する工夫。 ☐ 仮排水、仮道路、迂回路等の計画的な施工に関する工夫。 ☐ 運搬車両、施工機械等に関する工夫。 ☐ 支保工、型枠工、足場工、仮棧橋、覆工板、山留め等の仮設工に関する工夫。 ☐ 盛土の締固度、杭の施工高さ等の管理に関する工夫。 ☐ 施工計画書の作成、写真の管理等に関する工夫。 ☐ 出来形又は品質の計測、集計、管理図等に関する工夫。 ☐ 施工管理ソフト、土量管理システム等の活用に関する工夫。 ☐ ICT（情報通信技術）を活用した情報化施工を取り入れた工事。※本項目は2点の加点とする。 ☐ 特殊な工法や材料を用いた工事。 ☐ 優れた技術力又は能力として評価する技術を用いた工事。（新技術の活用など） 【品質】 ☐ 土工、機械設備、電気設備の品質向上に関する工夫。 ☐ コンクリートの材料、打設、養生に関する工夫。 ☐ 鉄筋、PCケーブル、コンクリート二次製品等の使用材料に関する工夫。 ☐ 配筋、溶接作業等に関する工夫。 【安全衛生】 ☐ 建設業労働災害防止の高い知識を有する講師による安全衛生教育を実施している。※本項目は2点の加点とする。 ☐ 安全を確保するための仮設備等に関する工夫。（落下物、墜落・転落、挟まれ、看板、立入禁止柵、手摺り、足場等） ☐ 安全教育、技術向上講習会、安全パトロール等に関する工夫。 ☐ 現場事務所、労働者宿舍等の空間及び設備等に関する工夫。 ☐ 有毒ガス並びに可燃ガスの処理及び粉塵防止並びに作業中の換気等に関する工夫。 ☐ 一般車両突入時の被害軽減方策又は一般交通の安全確保に関する工夫。 ☐ 厳しい作業環境の改善に関する工夫。 ☐ 環境保全に関する工夫。	【その他】 ☐ その他 理由： [-----] ☐ その他 理由： [-----] ☐ その他 理由： [-----] ☐ その他 理由： [-----] ☐ その他 理由： [-----]
	記述評価 (レマークを付した 評価内容を詳細記述)	評点＝ 点	創意工夫の詳細な内容

※1. 特に評価すべき創意工夫事例を加点評価する。

※2. 評価は各項目において1つ1点が付けられれば1点又は2点で評価し、最大7点の加点評価とする。

※3. 該当する数と重みを勘案して評定する。1項目1点を目安とするが、内容によってはそれ以上の点数を与えてもよい。

※4. 上記の考查項目の他に評価に値する企業の工夫があれば、その他に具体的内容を記載して加点する。なお、総括技術評価者が評価する「工事特性」との二重評価は行わない。

考察項目	細別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	II. 工程管理	☐ 優れている。	☐ やや優れている。	☐ 他の評価に該当しない	☐ やや劣っている。	☐ 不適切である
		【評価対象項目】 ☐ 隣接する他の工事などとの工程調整に取り組み、遅れを発生させることなく工事を完成させた。 ☐ 地元及び関係機関との調整に取り組み、遅れを発生させることなく工事を完成させた。 ☐ 工程管理を適切に行なったことにより、休日や夜間工事の回避等を行い、地域住民に公共工事に対する好印象を与えた。 ☐ 工程管理に係る積極的な取り組みが見られた。 ☐ 災害復旧工事など特に工期的な制約がある場合において、余裕をもって工事を完成させた。 ☐ 工事施工箇所が広範囲に点在している場合において、工程管理を的確に行い、余裕をもって工事を完成させた。 ☐ その他（理由： _____ ）				
		●判断基準 ※ 上記該当項目を総合的に判断して、a、b、c、d、e評価を行う			評価＝	
	III. 安全対策	a	b	c	d	e
		☐ 優れている。	☐ やや優れている。	☐ 他の評価に該当しない	☐ やや劣っている。	☐ 不適切である
		【評価対象項目】 ☐ 建設労働災害及び公衆災害の防止に向けた取り組みが顕著であった。 ☐ 安全衛生を確保するための管理体制を整備し、組織的に取り組んだ。 ☐ 安全衛生を確保するため、他の模範となるような活動に積極的に取り組んだ。 ☐ 安全対策に関する技術開発や創意工夫に取り組んだ。 ☐ 安全協議会での活動に積極的に取り組んだ。 ☐ 安全対策に係る取り組みが地域から評価された。 ☐ その他（理由： _____ ）				
		●判断基準 ※ 上記該当項目を総合的に判断して、a、b、c、d、e評価を行う			評価＝	
工程管理 詳細評価内容				安全対策 詳細評価 内容		

考察項目	細別	
4. 工事特性	I. 施工条件等への対応	I 構造物の特殊性への対応 ☐ 1.対象構造物の高さ、延長、施工(断)面積、施工深度等の規模が特殊な工事 ☐ 2.対象構造物の形状が複雑であることなどから、施工条件が特に変化する工事 ☐ 3.その他 理由 ※上記の対応事項に1つ以上レ点が付けば4点の加点とする。 II 都市部等の作業環境、社会条件等への対応 ☐ 4.地盤の変形、近接構造物、地中埋設物への影響に配慮する工事 ☐ 5.周辺環境条件により、作業条件、工程等に大きな影響を受ける工事 ☐ 6.周辺住民等に対する騒音・振動を特に配慮する工事 ☐ 7.現道上での交通規制に大きく影響する工事 ☐ 8.緊急時に対応が特に必要な工事 ☐ 9.施工箇所が広範囲にわたる工事 ☐ 10.その他 理由 ※上記の対応事項に1つ以上レ点が付けば6点の加点とする。

(1.について)
 切土の土工量:20万m³以上、盛土の土工量:15万m³以上、護岸・築堤の平均高さ:10m以上、トンネル(シールド)の直径:8m以上、ダム用水門の設計水深:25m以上、樋門又は樋管の内空断面積:15m²以上、揚排水機場の吐出管径:2,000mm以上、堰又は水門の最大径間長:25m以上、堰又は水門の径間数:3径間以上、堰又は水門の扉体面積:50m²/門以上、トンネル(開削工法)の開削深さ:20m以上、トンネル(NATM)の内空平均面積:100m²以上、トンネル(沈埋工法)の内空平均面積:300m²以上、海岸堤防・護岸・突堤又は離岸堤の水深:10m以上、地滑り防止工:幅100m以上かつ法長150m以上、浚渫工の浚渫土量:100万m³以上、流路工の計画高水流量:500m³/s以上、砂防ダム等の堤高:15m以上、ダム等の堤高:150m以上、転流トンネルの流下能力:400m³/s以上、橋梁下部工の高さ:30m以上、橋梁上部工の最大支間長:100m以上
 (2.について)
 ・砂防工事などにおいて、現地合わせに基づいて再設計が必要な工事。
 ・鉄道に隣接した橋脚の耐震補強工事又は河道内の流水部における橋脚の撤去工事。
 ・供用中の道路トンネルの拡幅工事。
 (3.について)
 ・その他、構造物固有の難しさへの対応が特に必要な工事。
 ・その他、技術固有の難しさへの対応が必要である工事。
 ・地山強度が低い又は土被りが薄い場合、FEM解析などによる検討が必要な工事。

(4.について)
 ・供用中の鉄道又は道路と交差する橋梁などの工事。
 ・市街地等の家屋密集地での、鉄道又は道路をアンダーパスする工事。
 ・監視などの結果に基づき、工法の変更を行った工事。
 (5.について)
 ・ガス管、水道管、電話線等の支障物件の移設について、施工程の管理に特に注意を要した工事。
 ・地元調整や環境対策などの制約が特に多い工事。
 ・そのほか各種制約があり、施工に特に厳しい制限を受けた工事。
 (7.について)
 ・日交通量が概ね1万台以上の道路で片側交互通行の交通規制をした工事。
 ・供用している自動車専用道路等の路上工事で、交通規制が必要な工事。
 ・工事期間中の大半にわたって、交通開放を行うため規制標識の設置撤去を日々行った工事。
 (8.について)
 ・緊急時の作業があり、その作業の全てに対応した工事。
 (9.について)
 ・作業現場が広範囲に分布している工事。
 (10.について)
 ・施工ヤードの広さや高さに制限があり、機械の使用など施工に制約を受けた工事。
 ・その他、周辺環境又は社会条件への対応が特に必要な工事。

		Ⅲ厳しい自然・地盤条件への対応 ☐ 11.特殊な地盤条件への対応が必要な工事 ☐ 12.雨・雪・風・気温・波浪等の自然条件の影響が大きな工事 ☐ 13.急峻な地形及び土石流危険渓流内での工事 ☐ 14.動植物等の自然環境の保全に特に配慮しなければならない工事 ☐ 15.その他 理由 ※上記の対応事項に1つ以上レ点が付けば4点の加点とする。	(11.について) ・河川内の橋脚工事において地下水位が高く、ウエルポイント工法などによる排水や大規模な山留めなどが必要な工事。 ・支持地盤の形状が複雑なため、深礎杭基礎毎に地質調査を実施するなど支持地盤を確認しながら再設計した工事。 ・施工不可能日が多いことから、施工機械の稼働率や台数などを的確に把握する必要性が生じた工事。 (12.について) ・海岸又は河川区域内のため、設計書で計上する以上に波浪等の影響で不稼働日が多く、主に作業船や台船を使用する工事。 ・潜水土を多用した工事又は波浪や水位変動が大きいため作業構台等を設置した工事。 (13.について) ・急峻な地形のため、作業構台や作業床の設置が制限される工事。もしくは、命綱を使用する必要があった工事(法面工は除く)。 ・斜面上又は急峻な地形直下での工事のため、工事に伴う地滑り防止対策等の安全対策を必要とした工事。 ・土石流危険渓流に指定された区域内における工事 (14.について) ・イヌワシ等の猛禽類などの貴重な動植物への配慮のため、工程や施工方法に制約を受けた工事 (15.について) ・その他、自然条件又は地盤条件への対応が必要であった工事。 ・その他、災害等における臨機の措置のうち特に評価すべき事項が認められる工事
		Ⅳ長期工事における安全確保への対応 ☐ 16. 12ヶ月を超える工期で、事故がなく完成した工事(全面一時中止期間は除く) ☐ 17.その他 理由 ※上記の対応事項に1つ以上レ点が付けば6点の加点とする。	評点 = 点
※1. 工事特性は、最大20点の加点評価とする。 ※2. 主任技術評価者が評価する「5. 創意工夫」との二重評価は行わない。 ※3. 評価にあたっては、監督員の意見も参考に評価する。		施工条件等への 対応の詳細評価 内容	

別紙-2③

(総括技術評価者)

考察項目	細別	☐a 優れている。	☐a' bより優れている	☐b やや優れている	☐b' cより優れている	☐c 他の評価に該当しない	
6. 社会性等	I. 地域への 貢献等	【評価対象項目】 ☐ 周辺環境への配慮に積極的に取り組んだ。 ☐ 現場事務所や作業現場の環境を周辺地域との景観に合わせるなど、積極的に周辺地域との調和を図った。 ☐ 定期的に広報紙の配布や現場見学会等を実施して、積極的に地域とのコミュニケーションを図った。 ☐ 道路清掃などを積極的に実施し、地域に貢献した。 ☐ 地域が主催するイベントへ積極的に参加し、地域とのコミュニケーションを図った。 ☐ 災害時などにおいて、地域への支援又は行政などによる救援活動への積極的な協力を行った。 ☐ その他（理由： _____） ●判断基準 ※ 上記該当項目を総合的に判断して、a、a'、b、b'、c、評価を行う					
						評価＝	
地域への貢献 等の詳細評価 内容							

7. 法令遵守等

法 令 遵 守 等 の 該 当 項 目 一 覧 表

措置内容	点 数
☐ 1. 指名停止 12ヶ月以上	－ 20 点
☐ 2. 指名停止 6ヶ月以上 12ヶ月未満	－ 15 点
☐ 3. 指名停止 3ヶ月以上 6ヶ月未満	－ 13 点
☐ 4. 指名停止 3ヶ月未満	－ 10 点
☐ 5. 文書注意	－ 8 点
☐ 6. 口頭注意	－ 5 点
☐ 7. 工事関係者事故又は公衆災害が発生したが、当該事故に係る安全管理の措置の不適切な程度が軽微なため、口頭注意以上の処分が行われなかった場合	－ 3 点
☐ 8.その他 理由：	－ 点
☐ 9.項目該当なし	

評点＝ 点

- ① 本考査項目(7.法令遵守等)で評価する事例は、施工にあたって工事関係者が下記の適応事例で上表の措置があった場合に適用する。
② 「施工」とは、請負契約書の記載内容(工事名、工期、施工場所等)を履行することに限定する。
③ 「工事関係者」とは、当該工事現場に従事する現場代理人、監理技術者、主任技術者、品質証明員、請負会社の現場従事職員及び当該工事にあたって下請契約し、それを履行するために従事する者に限定する。
④ 総合評価落札方式における技術提案が、受注者の責により履行されなかった場合は、8. その他の項目で減ずる措置を行う。

- 【上記で評価する場合の適応事例】
- 1 入札前に調査資料などにおいて虚偽の事実が判明した。
2.承諾なしに権利又は義務を第三者に譲渡又は承継した。
3.使用人に関する労働条件に問題があり送検された。
4.産業廃棄物処理法に違反する不法投棄、砂利採取法に違反する無許可採取等の関係法令に違反する事実が判明した。
5.当該工事関係者が贈収賄などにより逮捕又は公訴された。
6.建設業法に違反する事実が判明した 例)一括下請負、配置技術者(下請けの配置技術者含む)の専任違反等
7.入国管理法に違反する外国人の不法就労者が判明し、送検された。
8.労働基準法に違反する事実が判明し、送検等された。
9.監督又は検査の実施を、不当な圧力をかけるなどにより妨げた。
10.下請代金を期日以内に支払っていない、不当に下請代金の額を減じているなど下請代金支払遅延等防止法第4条に規定する親事業者の遵守事項に違反する行為がある。
11.過積載等の道路交通法違反により、逮捕又は送検された。
12.受注企業の社員に「指定暴力団」又は「指定暴力団の傘下組織(団体)」に所属する構成員、準構成員、企業舎弟等の暴力団関係者がいることが判明した。
13.下請に暴力団関係企業が入っていることが判明した。あるいは、「暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律」第9条に記されている砂利、砂、防音シート、軍手等の物品の納入、土木作業員やガードマンの受け入れ、土木作業員用の自動販売機の設置等を行っている事実が判明した。
14.安全管理が不適切であったことから死傷者を生じさせた工事関係者事故又は重大な損害を与えた公衆損害事故を起こした。

「**考査項目別運用表**」（土木工事）

（技術検査員）

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	I. 施工管理	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている
		●評価対象項目 ☐ 契約書第18条第1項第1号～5号に基づく設計図書の照査を行っていることが確認できる。（原則、全ての工事を対象） ☐ 施工計画書が工事着手前に提出され、所定の項目が記載されているとともに、設計図書の内容及び現場条件を反映したものとなっていることが確認できる。（原則、全ての工事を対象） ☐ 工事期間を通じて、施工計画書の記載内容と現場施工方法が一致していることが確認できる。（原則、全ての工事を対象） ☐ 現場条件又は計画内容に変更が生じた場合は、その都度当該工事着手前に変更計画書を提出していることが確認できる。 ☐ 工事材料の品質に影響が無いよう工事材料を保管していることが確認できる。 ☐ 立会確認の手続きを事前に行っていることが確認できる。 ☐ 建設副産物の再利用等への取り組みを行っていることが確認できる。 ☐ 施工体制台帳及び施工体系図を法令等に沿った内容で適確に整備していることが確認できる。（原則、全ての工事を対象） ☐ 下請に対する引き取り検査を実施していることが確認できる。 ☐ 品質証明体制が確立され、品質証明員による関係書類、出来形、品質等の確認を工事全般にわたって行っていることが確認できる。 ☐ 工事の関係書類を不足なく簡潔に整理していることが確認できる。（原則、全ての工事を対象） ☐ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。（原則、全ての工事を対象） ☐ その他 理由： ●判断基準 評価値が 90%以上・・・・・・・・a 評価値が 80%以上90%未満・・・・b 評価値が 80%未満・・・・・・・・c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除（チェックをつけない）する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。				

評価＝

※平成27年3月31日以前に契約した工事は、「施工体制台帳及び施工体系図」を「施工体制台帳、施工体系図及び下請負業者編成表」と読み替える

「検査項目別運用表」 （土木工事）

(技術検査員)

考 査 項 目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ I. 出来形	土木工事	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内で、下記の「評定対象項目」の4項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内で、下記の「評定対象項目」の3項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内で、下記の「評定対象項目」の3項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内で、下記の「評定対象項目」の2項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a～b'に該当しない。	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
●評価対象項目 ☐ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫していることが確認できる。 ☐ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 ☐ 不可視部分の出来形が写真で確認できる。 ☐ 写真管理基準の管理項目を満足している。 ☐ 出来形管理基準が定められていない工種について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 ☐ その他 理由： ※ばらつきの判断は別紙－4参照。 ① 出来形の評定は、工事全般を通じて評定するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ 出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。 ☐ ばらつき 50% 以下 ☐ ばらつき 80% 以下 ☐ ばらつきで判断不可能 ☐ 出来形管理項目を設定していない 評価＝								

「考査項目別運用表」 (土木・機械設備工事)

(技術検査員)

考 査 項 目	工 種	a	a ’	b	b ’	c	d	e		
3. 出来形及び	機械設備工事	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている		
出来ばえ	対象項目	●評価項目 ☐ 据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図などを工夫していることが確認できる。(原則、全ての工事を対象) ☐ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内であり、出来形の確認ができる。(原則、全ての工事を対象) ☐ 施工管理基準の撮影記録が撮影基準を満足し、出来形の確認ができる。(原則、全ての工事を対象) ☐ 設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 ☐ 不可視部分の出来形が写真で確認できる。 ☐ 塗装管理基準の塗膜厚管理が適切にまとめられており、出来形の確認ができる。 ☐ 溶接管理基準の出来形管理が適切にまとめられており、出来形の確認ができる。 ☐ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。(原則、全ての工事を対象) ☐ 設計図書に定められている予備品に不足が無いことが確認できる。 ☐ 分解整備における既設部品等の摩耗、損傷等について、整備前と整備後の老化状況及び回復状況が図表等に記録していることが確認できる。 ☐ その他 理由：					☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。		
I. 出来形		●判断基準 評価値が 90%以上・・・・・・ a 評価値が 80%以上90%未満・・・・ a ’ 評価値が 70%以上80%未満・・・・ b 評価値が 60%以上70%未満・・・・ b ’ 評価値が 60%未満・・・・・・ c					① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%) = 該当項目数 () / 評価対象項目数 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。		評価＝	

考 査 項 目	工 種	a	a ’	b	b ’	c	☐ d	☐ e
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	総合工種	☐ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙－4 参照					☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
	【対象】	【評価項目】 ☐ 品質管理についての工事記録写真が整理されている。 ☐ 品質試験は、頻度・項目とも必要数実施されている。 ☐ 共通仕様書・関連基準書等の施工規定が守られている。 ☐ 施工規定の管理について、記録が整理されている。 ☐ 使用材料の品質規格証明書（ミルシート・検査証明書等）が整理されている。 ☐ 品質管理及び記録の整理に創意工夫が見られた。 ☐ 使用する材料の品質・形状等が適切であり、かつ現場において材料確認を適宜・的確に行っていることが確認できる。 ☐ 現地状況を勘案し、施工方法や構造についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。 ☐ 施工箇所以外の部分に損傷を与えないよう工夫していることが確認できる。 ☐ 施工条件や気象条件を考慮して施工したことが確認できる。 ☐ 対象物に有害なクラック、損傷が無い。 ☐ 水平度、鉛直度等が、設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ その他理由： ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除（チェックをつけない）する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値（ % ）＝該当項目数（ ）／ 対象項目（ ） ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。						

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90% 以上	a	a ’	b	b
	75% 以上 90% 未満	a ’	b	b ’	b ’
	60% 以上 75% 未満	b	b ’	c	c
	60% 未満	b ’	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。

☐ ばらつき 50% 以下

☐ ばらつき 80% 以下

☐ ばらつき 80% を超える

☐ ばらつきで判断不可能

評価＝

3. 出来形及び 出来ばえ III. 出来ばえ	総合工種	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
		●評価対象項目 ☐ 構造物の形状外観及び通りが良い。 ☐ 構造物の表面仕上げが、仕様書の規定どおりに行われている。 ☐ 構造物の表面仕上げが、ていねいで均一に行われている。 ☐ 隣接構造物・地山等との取付け・すり合せがよい。 ☐ 構造物の仕上りは、使用目的・使用者の安全に配慮されている。 ●判断基準 該当 4 項目以上・・・a 該当 3 項目・・・・・・b 該当 2 項目・・・・・・c 該当 1 項目以下・・・d				

考 査 項 目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	コンクリート 構造物工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ 〔 関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験 〕 ※ ばらつきの判断は別紙－4 参照					品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
	【対象】	【評価項目】						
	☐	☐ コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度・w／c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。						
	☐	☐ コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。						
	☐	☐ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。						
	☐	☐ 施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。						
	☐	☐ (寒中及び暑中コンクリート等を含む)						
	☐	☐ コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。						
	☐	☐ コンクリートの打設前に、打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。						
	☐	☐ 鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。						
	☐	☐ コンクリート打設までにさび、どろ、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。						
	☐	☐ 鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
	☐	☐ 圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。						
	☐	☐ コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
	☐	☐ スーパーの品質及び個数が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
	☐	☐ 有害なクラックが無い。						
		その他 理由：						
		① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除（チェックをつけない）する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%) = 該当項目数 () / 対象項目 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。						
		☐ ばらつき 50% 以下 ☐ ばらつき 80% 以下 ☐ ばらつき 80% を超える ☐ ばらつきで判断不可能						
		評価＝						

3. 出来形及び 出来ばえ III. 出来ばえ	コンクリート 構造物工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
		●評価対象項目 コンクリート構造物の表面状態が良い。 ☐ コンクリート構造物の通りが良い。 ☐ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 ☐ クラックが無い。 ☐ 漏水が無い。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ ●判断基準 該当 5 項目以上・・・a 該当 4 項目・・・・・・b 該当 3 項目・・・・・・c 該当 2 項目以下・・・d				

考 査 項 目	工 種	a	a ’	b	b ’	c	☐ d	☐ e																													
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	公園工事	☐ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ 〔 関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験 〕 ※ ばらつきの判断は別紙－4 参照					☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。																													
	【対象】	【評価項目】 【路床・路盤工関係】 ☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐ 品質管理記録が整理されている。 品質管理についての工事写真が整理されている。 設計図書（施工管理基準等）で定められている品質管理が項目・頻度とも実施されている。 使用材料の品質規格証明書が整備され、設計図書との適合性が確認できる。 遊戯施設等の機能・安全性において、設計図書との適合性が確認できる。 樹木等の品質・規格寸法が規格値以上とれている。 樹木の活着管理が適切に行われている。 支柱材料及び取付け方法は設計図書の規定どおりとなっている。 ☐ その他 理由： ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除（チェックをつけない）する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 （ % ）＝該当項目数 （ ） ／ 対象項目 （ ） ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">ばらつきで判断可能</th><th rowspan="2">ばらつきで判断不可能</th></tr><tr><th>50%以下</th><th>80%以下</th><th>80%を超える</th></tr><tr><th rowspan="4">評価値</th><th>90% 以上</th><td>a</td><td>a ’</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><th>75% 以上 90% 未満</th><td>a ’</td><td>b</td><td>b ’</td><td>b ’</td></tr><tr><th>60% 以上 75% 未満</th><td>b</td><td>b ’</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><th>60% 未満</th><td>b ’</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。 ☐☐☐☐ ばらつき 50% 以下 ばらつき 80% 以下 ばらつき 80% を超える ばらつきで判断不可能 評価＝									ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能	50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90% 以上	a	a ’	b	b	75% 以上 90% 未満	a ’	b	b ’	b ’	60% 以上 75% 未満	b	b ’	c	c	60% 未満	b ’	c	c
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																
		50%以下	80%以下	80%を超える																																	
評価値	90% 以上	a	a ’	b	b																																
	75% 以上 90% 未満	a ’	b	b ’	b ’																																
	60% 以上 75% 未満	b	b ’	c	c																																
	60% 未満	b ’	c	c	c																																

3. 出来形及び 出来ばえ III. 出来ばえ	公園工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
		●評価項目 ☐ 樹木の活着状況が良い。 ☐ 支柱の取り付けがきめ細かく施工されている。 ☐ 支柱の取り付けが堅固である。 ☐ 樹幹は垂直に建込み、見栄え良く植え付けている。 ☐ 全体的な美観が良い。 ●判断基準 該当 4 項目以上・・・a 該当 3 項目・・・・・・b 該当 2 項目・・・・・・c 該当 1 項目以下・・・d 評価=				

考 査 項 目	工 種	a	a'	b	b'	c	☐ d	☐ e
3. 出来形及び 出来ばえ II. 品質	植栽工事	☐ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙－4 参照					☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
	【対象】	【評価項目】 ☐ 活着が促されるよう管理していることが確認できる。 ☐ 樹木などに損傷、はちくずれ等が無いよう保護養生を行っていることが確認できる。 ☐ 樹木等の生育に害のある害虫等がないことが確認できる。 ☐ 施工完了後、余剰枝の剪定、整形その他必要な手入れを行っていることが確認できる。 ☐ 肥料が直接樹木の根に触れないよう均一に施肥していることが確認できる。 ☐ 植生する樹木に応じて、余裕のある植穴を掘り植穴底部を耕していることが確認できる。 ☐ 添木をぐらつきがないよう設置していることが確認できる。 ☐ 樹名板を視認しやすい場所に据付けていることが確認できる。 ☐ ばらつき 50% 以下 ☐ ばらつき 80% 以下 ☐ ばらつき 80% を超える ☐ ばらつきで判断不可能 ☐ その他 理由： ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除（チェックをつけない）する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%)＝該当項目数 () / 対象項目 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 評価＝						

3. 出来形及び 出来ばえ III. 出来ばえ	植栽工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
		●評価対象項目 ☐ 樹木の活着状況が良い。 ☐ 支柱の取り付けがきめ細かく施工されている。 ☐ 支柱の取り付けが堅固である。 ☐ 全体的な美観が良い。 ●判断基準 該当3項目以上・・・a 該当2項目・・・・・・b 該当1項目・・・・・・c 該当項目なし・・・d				

考 査 項 目	工 種	a	a'	b	b'	c	☐ d	☐ e
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	橋梁補強工事（落橋防止工事を含む）	☐ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙－4 参照					☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
	【対象】	【評価項目】 【路床・路盤工関係】 ☐ 品質管理についての資料・工事記録写真が整理されている。 ☐ 仕様書等で定められている品質管理が測定項目・測定頻度とも満足している。 ☐ 材料の品質規格証明書が整備されている。 ☐ 工場塗装の塗装記録が整理されており、湿度・塗り間隔等が確認できる。 ☐ 当て傷等の塗装欠陥は補修されている。 ☐ 現場塗装の塗装記録が整理されており、湿度・塗り間隔等が確認できる。 ☐ 現場溶接の管理は仕様書・示方書等の規定どおり行われている。 ☐ 溶接継手の試験が行われ、結果は全て判定基準を満たしている。 ☐ 接合ボルトの締付け管理が仕様書・示方書等の規定どおり行われ、必要な試験が行われている。 ☐ コンクリート面の処理は設計図書どおり行われている。 ☐ コンクリート削孔の径・削孔長が確認できる。 ☐ アンカー削孔時に既設鉄筋の切断をしていないことが確認できる。 ☐ アンカーの引張試験は規定どおり行われ、結果は判定基準を満たしている。 ☐ 注入材料の品質管理及び施工条件の管理が行われている。 ☐ その他 理由： ☐ ばらつき 50% 以下 ☐ ばらつき 80% 以下 ☐ ばらつき 80% を超える ☐ ばらつきで判断不可能 評価＝ ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除（チェックをつけない）する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 （ % ）＝該当項目数 （ ） / 対象項目 （ ） ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。						

3. 出来形及び出来ばえ III. 出来ばえ	橋梁補強工事（落橋防止工事を含む）	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
		●評価項目 ☐ コンクリート表面は平滑で良く締め固められている。 ☐ コンクリート面にジャンカ・あばた・型枠の目違い等がない。 ☐ 現場塗装は、たれ・しわ・ゴミ卷込み等の欠陥がなく、ていねいに仕上げられている。 ☐ 溶接面には欠陥がなく、ていねいに仕上げられている。 ☐ 既設構造物とのすりつけが良い。 ☐ 塗装・溶接・コンクリート面の手直しは、ていねいに行われている。 ☐ 全体的な美観が良い。 ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%)＝該当項目数 () / 対象項目 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準 評価値が 90%以上・・・・・a 評価値が 80%以上90%未満・・・・・b 評価値が 60%以上80%未満・・・・・c 評価値が 60%未満 ・・・・・d 評価＝				

考 査 項 目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	機械設備工事	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
II. 品質	☐ ●評価対象項目 ☐ 材料、部品の品質照合の書類（現物照合）を整理し品質の確認ができる。 ☐ 設備の機能及び性能が、承諾図書のとおり確保され、品質の確認ができる。 ☐ 設計図書の仕様を踏まえた詳細設計を行い、承諾図書として提出していることが確認できる。 ☐ 機器の機能及び性能に係わる成績書が整理され、品質の確認ができる。 ☐ 溶接管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し品質の確認ができる。 ☐ 塗装管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し品質の確認ができる。 ☐ 操作制御設備について、操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性にすぐれていることが確認できる。 ☐ 操作制御設備の安全装置及び保護装置の機能・性能確認試験について、試験書類を整理し品質の確認ができる。 ☐ 小配管、電気配線、配管が承諾図書のとおり敷設していることが確認できる。 ☐ 設備の取扱説明書を工夫していることが確認できる。 ☐ 完成図書（取扱説明書）に部品等の点検及び交換方法について、まとめていることが確認できる。 ☐ 機器の配置が点検しやすいよう工夫していることが確認できる。 ☐ 設備の構造や機器の配置が、交換頻度の高い部品等の交換作業を容易にできるよう工夫していることが確認できる。 ☐ 二次コンクリートの配合試験及び試験練りを実施し、試験成績表にまとめていることが確認できる。 ☐ パルプ類の平時の状態を示すラベルなどが見やすい状態で表示していることが確認できる。 ☐ 計器類に運転時の適用範囲を見やすく表示していることが確認できる。 ☐ 回転部や高温部等の危険箇所に表示又は防護をしていることが確認できる。 ☐ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。 ☐ 現地状況を勘案し、施工方法等についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。 ☐ その他	理由：	☐ ●判断基準 評価値が 90%以上・・・・・・ a 評価値が 80%以上90%未満・・・・ a' 評価値が 70%以上80%未満・・・・ b 評価値が 60%以上70%未満・・・・ b' 評価値が 60%未満・・・・・・ c	① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除（チェックをつけない）する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値（ % ）＝ 該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。				

Ⅲ. 出来ばえ	機械設備工事	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている
		●評価対象項目 ☐ 主設備、関連設備及び操作制御設備が全体的に統制されており、運転操作性が良い。 ☐ きめ細かな施工がなされている。 ☐ 土木構造物、既設設備等とのすりつけが良い。 ☐ 溶接、塗装、組立等にあたって、細部に渡る配慮がなされている。 ☐ 全体的な美観が良い。 ●判断基準 該当 4 項目以上・・・a 該当 3 項目・・・・・・b 該当 2 項目・・・・・・c 該当 1 項目以下・・・d 評価＝			

考 査 項 目	工 種	a	a ’	b	b ’	c	☐ d	☐ e																														
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	管更生工事	☐ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙－4 参照					☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。																														
	【対象】	【評価項目】																																				
	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ 材料の品質照合が、試験報告書及び品質証明書等（現場照合を含む）で確認でき、満足している。 ☐ 品質や機能確保のため、事前調査及び技術検討が十分なされ、記録等から内容が確認できる。 ☐ 各種工法に基づくライニング材の厚みが記録等から確認でき、満足している。 ☐ 各種工法による硬化スケジュールに沿って適切な温度管理を行ったことが記録から確認でき、満足している。 ☐ 穿孔を適切に行い、他の管との接続部に凹凸がない。 ☐ 各種工法に基づくライニング材等の強度試験等を実施したことが成績書から確認でき、満足している。 ☐ 現場において、ライニング材等の材料管理が適切に行われていることが記録等から確認できる。 ☐ その他 理由：					●判断基準 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">ばらつきで判断可能</th><th rowspan="2">ばらつきで判断不可能</th></tr><tr><th>50%以下</th><th>80%以下</th><th>80%を超える</th></tr><tr><th rowspan="4">評価値</th><td>90% 以上</td><td>a</td><td>a ’</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75% 以上 90% 未満</td><td>a ’</td><td>b</td><td>b ’</td><td>b ’</td></tr><tr><td>60% 以上 75% 未満</td><td>b</td><td>b ’</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60% 未満</td><td>b ’</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。 ☐ ばらつき 50% 以下 ☐ ばらつき 80% 以下 ☐ ばらつき 80% を超える ☐ ばらつきで判断不可能 評価＝				ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能	50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90% 以上	a	a ’	b	b	75% 以上 90% 未満	a ’	b	b ’	b ’	60% 以上 75% 未満	b	b ’	c	c	60% 未満	b ’	c	c	c
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																	
		50%以下	80%以下	80%を超える																																		
評価値	90% 以上	a	a ’	b	b																																	
	75% 以上 90% 未満	a ’	b	b ’	b ’																																	
	60% 以上 75% 未満	b	b ’	c	c																																	
	60% 未満	b ’	c	c	c																																	
		① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除（チェックをつけない）する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%)＝該当項目数 () / 対象項目 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。																																				

3. 出来形及び 出来ばえ III. 出来ばえ	管更生工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
		●評価対象項目 既設管の影響があるところを除き、ライニング材がよれていない ☐ ひび割れ、漏水しているところがない ☐ 本管・取付管とのすりつけがよい ☐ きめ細やかな施工がなされている ☐ 施工管理記録等から出来ばえの良さがうかがえる。 ☐ 管口が正確に切断され、損傷がない。 ☐				
		●判断基準 該当5項目以上・・・a 該当4項目・・・b 該当3項目・・・c 該当2項目以下・・・d				評価＝

考 査 項 目	工 種	a	a ’	b	b ’	c	☐ d	☐ e																													
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	管渠工事	☐ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ 〔 関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験 〕 ※ ばらつきの判断は別紙－4 参照					☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。																													
	【対象】	【評価項目】 ☐ 品質管理についての資料・工事記録写真が整理されている。 ☐ 材料の品質規格証明書が整備されている。 ☐ 管渠に目立った屈曲や沈下がない。 ☐ 管渠に有害なクラックや変形、漏水箇所がない。 ☐ 管渠継手部及びマンホール連結部の目地仕上が良好に行われている。 ☐ 推進管の裏込材料が充分充填されている。 ☐ マンホールの各部材にクラックや漏水がない。 ☐ マンホールの足掛金物の位置・方向が適切であり、鉄蓋にガタツキがなく仕上天端高も適切に施工されている。 ☐ インパートの形状、勾配、表面仕上げが適切に施工されている。 ☐ 埋戻しにおける締固めが適切に行われており、工事終了後の沈下が見られない。 ☐ その他 理由： ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除（チェックをつけない）する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%)＝該当項目数 () ／ 対象項目 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">ばらつきで判断可能</th><th rowspan="2">ばらつきで判断不可能</th></tr><tr><th>50%以下</th><th>80%以下</th><th>80%を超える</th></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90% 以上</td><td>a</td><td>a ’</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75% 以上 90% 未満</td><td>a ’</td><td>b</td><td>b ’</td><td>b ’</td></tr><tr><td>60% 以上 75% 未満</td><td>b</td><td>b ’</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60% 未満</td><td>b ’</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。 ☐ ばらつき 50% 以下 ☐ ばらつき 80% 以下 ☐ ばらつき 80% を超える ☐ ばらつきで判断不可能 評価＝									ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能	50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90% 以上	a	a ’	b	b	75% 以上 90% 未満	a ’	b	b ’	b ’	60% 以上 75% 未満	b	b ’	c	c	60% 未満	b ’	c	c
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																
		50%以下	80%以下	80%を超える																																	
評価値	90% 以上	a	a ’	b	b																																
	75% 以上 90% 未満	a ’	b	b ’	b ’																																
	60% 以上 75% 未満	b	b ’	c	c																																
	60% 未満	b ’	c	c	c																																

3. 出来形及び 出来ばえ III. 出来ばえ	管渠工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
		●評価対象項目 ☐ 内空面にクラック・傷がない。 ☐ 漏水がない。 ☐ 既設構造物とのすりつけが良い。 ☐ 部材接合部がしっかり固定されている。 ☐ 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 ●判断基準 該当 4 項目以上・・・a 該当 3 項目・・・・・・b 該当 2 項目・・・・・・c 該当 1 項目以下・・・d 評価＝				

3. 出来形及び 出来ばえ III. 出来ばえ	舗装工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
		●評価対象項目 ☐ 舗装の平坦性が良い。 ☐ 構造物の通りが良い。 ☐ 端部処理が良い。 ☐ 構造物へのすりつけ等が良い。 ☐ 雨水処理が良い。 ☐ 全体的な美観が良い。 ●判断基準 該当 5 項目以上・・・a 該当 4 項目・・・・・・b 該当 3 項目・・・・・・c 該当 2 項目以下・・・d				

考 査 項 目	工 種	a	a'	b	b'	c	☐ d	☐ e
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	防護柵(柵)設置工事	☐ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。＜判断基準参照＞ [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙-4 参照					☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の試験方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
	【対象】	【評価項目】 【路床・路盤工関係】 ☐ 防護柵設置要綱、視線誘導標設置基準、道路標識ハンドブック等の規定を満足していることが確認できる。 ☐ 防護柵等の床堀りの仕上がり面において、地山の乱れや不陸が生じないように施工していることが確認できる。 ☐ 防護柵等の基礎工の施工にあたって、無筋及び鉄筋コンクリートの規定を満足していることが確認できる。 ☐ 防護柵等の支柱の施工にあたって、既設舗装面へ影響が無いよう施工していることが確認できる。 ☐ 基礎設置箇所について地盤の地耐力を把握して、施工していることが確認できる。 ☐ 防護柵の支柱の根入長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ ガードケーブルを支柱に取付ける場合、設計図書に定められた所定の張力を与えているのが確認できる。 ☐ ガードケーブルの端末支柱を土中に設置する場合、打設したコンクリートが設計図書に定められた強度以上であることが確認できる。 ☐ その他 理由： ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除(チェックをつけない)する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%) = 該当項目数 () / 対象項目 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ☐ ばらつき 50% 以下 ☐ ばらつき 80% 以下 ☐ ばらつき 80% を超える ☐ ばらつきで判断不可能 評価＝						

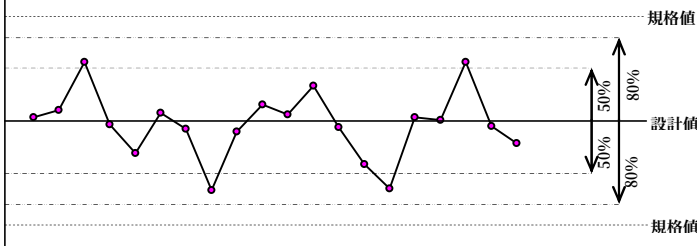
3. 出来形及び出来ばえ III. 出来ばえ	防護柵（網）設置工事	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
		●評価対象項目 ☐ 通りが良い。 ☐ 端部処理が良い。 ☐ 部材表面に傷及び錆が無い。 ☐ 既設構造物等とのすりつけが良い。 ☐ きめ細やかに施工されている。 ☐ 全体的な美観が良い。 ●判断基準 該当 5 項目以上・・・a 該当 4 項目・・・・・・b 該当 3 項目・・・・・・c 該当 2 項目以下・・・d 評価＝				

出来形及び品質のばらつきの考え方

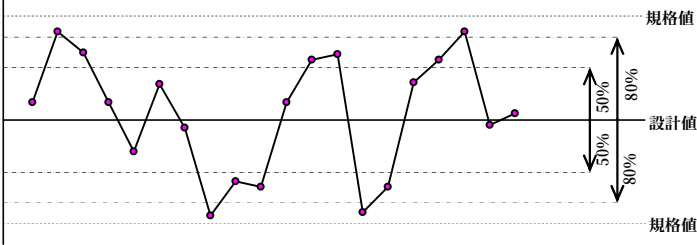
[管理図の場合]

(上・下限値がある場合)

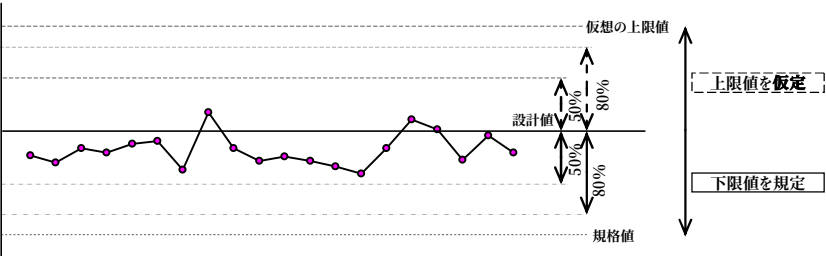
①ばらつきが50%以下と判断できる例



②ばらつきが80%以下と判断できる例

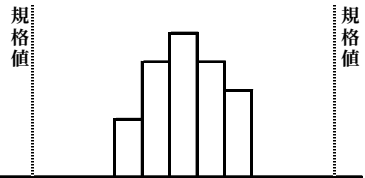


(下限値のみの場合)

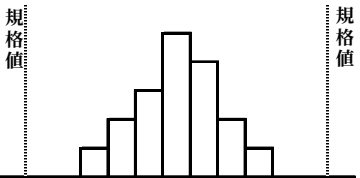


[度数表またはヒストグラムの場合]

ばらつきが小さい



ばらついている



ばらつきが大きい

